

万行寺寺報

Mangyoji Jiho

発行
浄土真宗本願寺派
万行寺 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460



■住職法話

「自分のことは棚に置いて」

■浄土真宗 ◎仏事のイロハ

■本願寺の本

お休みします

■お知らせ、編集後記

Photo

今年は、季節が先取りしているようで、桜の開花も早かったです。佐久の桜は満開です。お陰様で、我が家の娘は小学1年生になりました。小学校の中庭の桜も満開です。(佐久市立平根小学校HPより)

住職 法話

自分のことは棚に置いて

我が家の娘は、小学一年生になりました。親子共々に、慣れない環境で戸惑いながらも、元気に迎えることが出来ました。おかげさまと感謝の念に堪えません。

子の成長を感じながら、最近、食事中にこんなやり取りがありました。突然、娘が「お父さん！ご飯こぼしてるよ」と注意をしました。私は「誰でもこぼすものだから、しょうがないの」と答えると、娘は「お父さんは、いつも私のこと注意しているから言ったの」と言い返してきました。またある時は、「お父さん、遊ぼうよ」と、自分の好きな遊びを一緒にしようとする誘い

すが、そんな時に限って、玩具が片付いていなかったり、手洗いうがいや済んでいなかったりします。「やることやってからね」と言って済ませてから遊ぶようにしています。

どちらも、よくある親子の光景です。自分のことは棚に置いて、という言葉もありますように、人のことはよく目につきますが、自分のことはなかなか気づかないものです。『蓮如上人御一代記聞書』で蓮如上人は仰せになります。

他人の悪いところはよく目につくが、自分の悪いところ

ろは気づかないものである。もし自分で悪いと気づくようであれば、それはよほど悪いからこそ自分でも気づいたのだと思つて、心をあらためなければならぬ。人が注意をしてくれることに耳を傾け、素直に受け入れなければならぬ。自分自身の悪いところはなかなかわからないものである。

どうしても私たちは人の欠点が気になるものです。成長と共に、善し悪しがわかってくると、子供でも同じです。しかし、自分のことに気づかせてもらわないと、他への不満や怒りばかりの生活になって

しまいます。ですから、間違いに気づいて素直に受け入れる姿勢が大切になってきます。

ブツシュ孝子さんの「あやまち」という詩です。
あやまちはだれでもする
強い人も弱い人も
賢い人も愚かな人も
あやまちは人間をきめない
あやまちは後が人間をきめる
あやまちは重さを
自分の肩になうか
あやまちをのがれて
次のあやまちをおかすか
あやまちは人生をきめない
あやまちは後が人生をきめる
申し訳ないは、感謝の心の表れです。



せよ」という意味です。また「**尽十方無碍光如来**」とは「あらゆる世界に届けて、けつしてさまたげられることのない**光明**をお持ちの**仏さま**」であり、「**不可思議光如来**」は「人が思いはかることのできない限りなき**光明**をお持ちの**仏さま**」という意味で、い

ずれも**阿弥陀さま**のことです。したがって、**西名号**としても「**南無阿弥陀仏**」と同じく「この私にまかせよ、必ず**光明**の中に摂めとつて救うから…」という**阿弥陀さま**の尊いお心を表しているのです。

宗祖と蓮如上人の御影は、私たちに**阿弥陀さま**のお心を伝えてくださった大切な方から**奉懸**するのですが、そのお姿が**阿弥陀さま**の方を向いて念仏さされていることに注目ください。

こうした**ご本尊**・お脇掛を通して、**仏さま**のお心に触れるのです。

また、**本願寺**では、**ご本尊**の**絵像**や、「**南無阿弥陀仏**」の**名号**を安置した**厨子型**の**三三仏壇**「いちよう」「きく」が用意されています。「いち

よう」の大きさは高さ**二四cm**・幅**一九cm**・奥行**九cm**で、「きく」は高さ**一七・二cm**・幅**一〇・三cm**・奥行**二・九cm**です。一人暮らしの方や、新しく家庭を持たれる方など、日常生活の中で、心の依りどころを持ちたいという方にお薦めです。

なお、「**ご本尊**は**手次ぎ**のお寺を通して、**西本願寺**参拝**化部**に**冥加金**をそえて申し込めます。詳しくは**手次ぎ**のお寺にお尋ねください。

ポイント

- ▼お仏壇の中心は**ご本尊**の**阿弥陀さま**
- ▼新しく家庭を持たれる方などに**三三仏壇**の「いちよう」「きく」を

「浄土真宗 〇〇仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より」

ありのままに、ひたむきに
不安な今を生きる
浄土真宗本願寺派 第25代門主 大谷 光淳 著

ホシネ対談 遠藤保仁氏 (ガンバ大塚) 大平光代氏 (所蔵)

背伸びしなくていい。よく見られたいと思わなくていい——。

編集後記

「住職法話」は、十二年前の発行当時の寺報をもとに書かせていただきました。その間に、子も授かったこともあり、十数年前と現在との、味わいの変化も感じながら編集をしました。◆「仏事のイロハ」は、何気なくお参りしているお仏壇のご本尊についてです。重要などころなので、「本願寺の本」はお休みにして、そのまま2ページにわたって載せています。◆久々の発行になってしまいました。今後とも宜しくお願い致します。

